



I 第12週の発生動向 (2026/3/16~2026/3/22)

- インフルエンザについては、東津軽+青森市保健所管内、三戸+八戸市保健所管内、上北保健所管内及び下北保健所管内で**警報**が継続しています。また、中南保健所管内及び西北保健所管内で**注意報**が継続しています。県全体の定点当たり報告数は減少していますが、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、基本的な感染対策の徹底をお願いします。季節性インフルエンザの発生状況・型別等の情報については、県庁HP「インフルエンザに注意しましょう!」をご覧ください。☞ [インフルエンザに注意しましょう! \(県保健衛生課\)](#)
- 水痘については、西北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**注意報レベル**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「RSウイルス感染症」です。

最終ページに掲載しています。

II 第12週五類定点把握象疾患

※記載データは、速報値です。

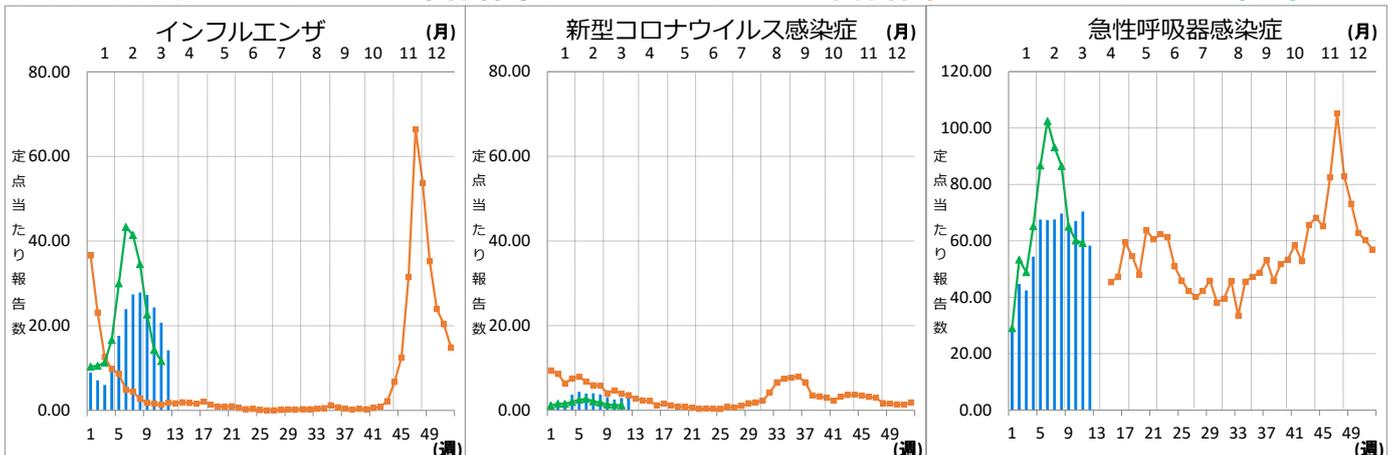
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■は警報、■は注意報。「空欄」: 患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性呼吸器感染症															
インフルエンザ	236	21.45	104	10.40	124	12.40	85	14.17	93	10.33	96	16.00	738	14.19	-340
新型コロナウイルス感染症	29	2.64	10	1.00	30	3.00	40	6.67	31	3.44	8	1.33	148	2.85	-4
急性呼吸器感染症	1022	92.91	399	39.90	503	50.30	333	55.50	402	44.67	373	62.17	3032	58.31	-630
小児科															
RSウイルス感染症	9	1.50	2	0.33	1	0.14			1	0.17	2	0.50	15	0.44	-1
咽頭結膜熱	2	0.33	4	0.67	5	0.71							11	0.32	1
A群溶血性レンカ球菌咽頭炎	15	2.50	9	1.50	4	0.57	14	2.80	2	0.33	6	1.50	50	1.47	-45
感染性胃腸炎	18	3.00	10	1.67	21	3.00	14	2.80	5	0.83	3	0.75	71	2.09	-40
水痘	3	0.50	2	0.33			6	1.20	1	0.17			12	0.35	7
手足口病															0
伝染性紅斑			1	0.17			1	0.20					2	0.06	1
突発性発しん	1	0.17	1	0.17	2	0.29			1	0.17			5	0.15	0
ヘルパンギーナ															0
流行性耳下腺炎															0
眼科															
急性出血性結膜炎															0
流行性角結膜炎															0
基幹															
感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
クラミジア肺炎															0
細菌性髄膜炎															0
マイコプラズマ肺炎											6	6.00	6	1.00	-6
無菌性髄膜炎															0

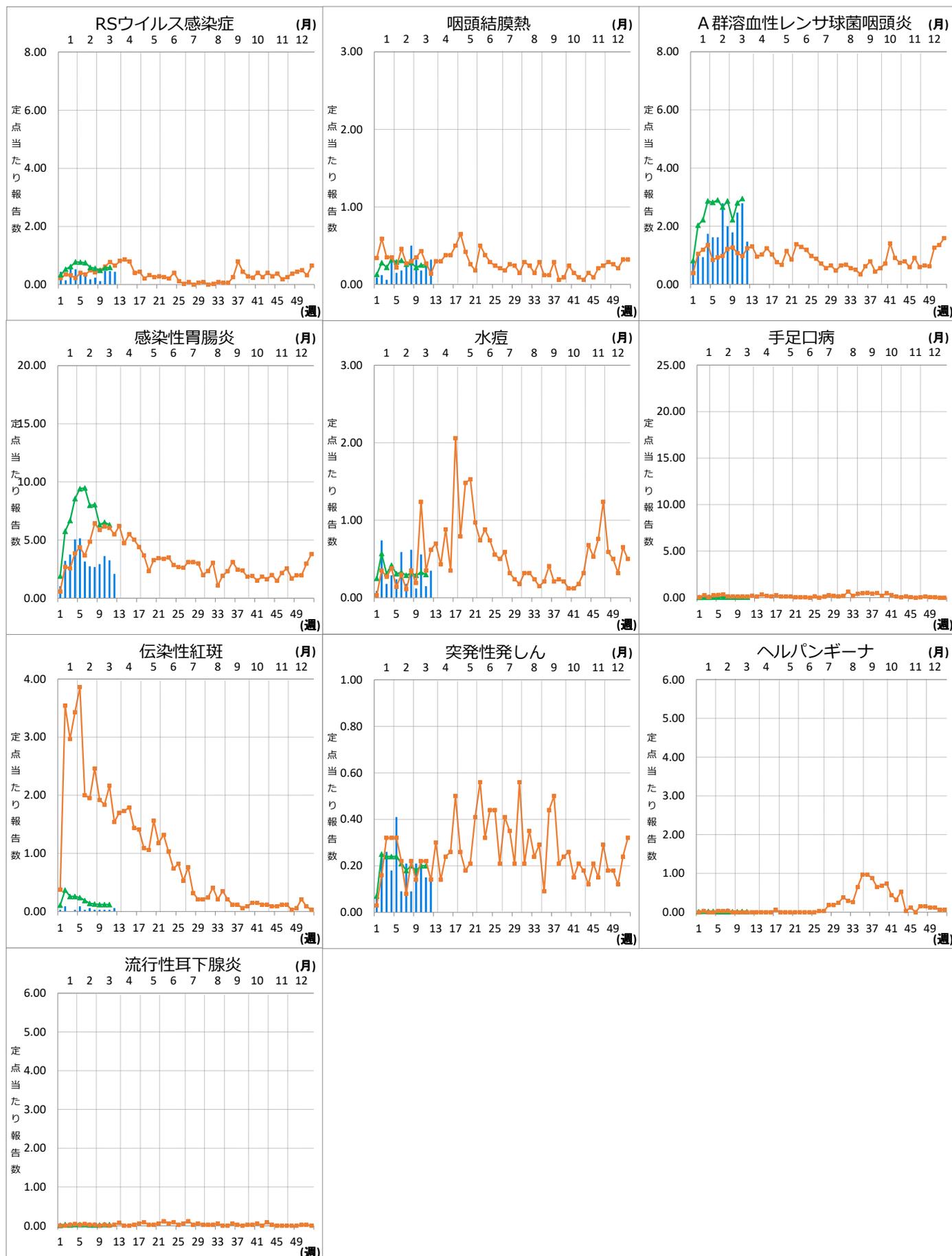
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第12週、ただし全国は前週)

グラフの説明: 〇—は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



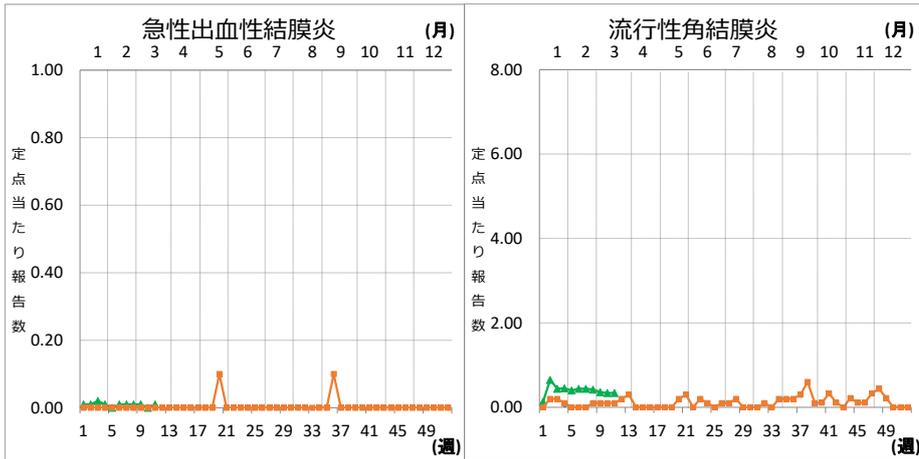
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第12週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



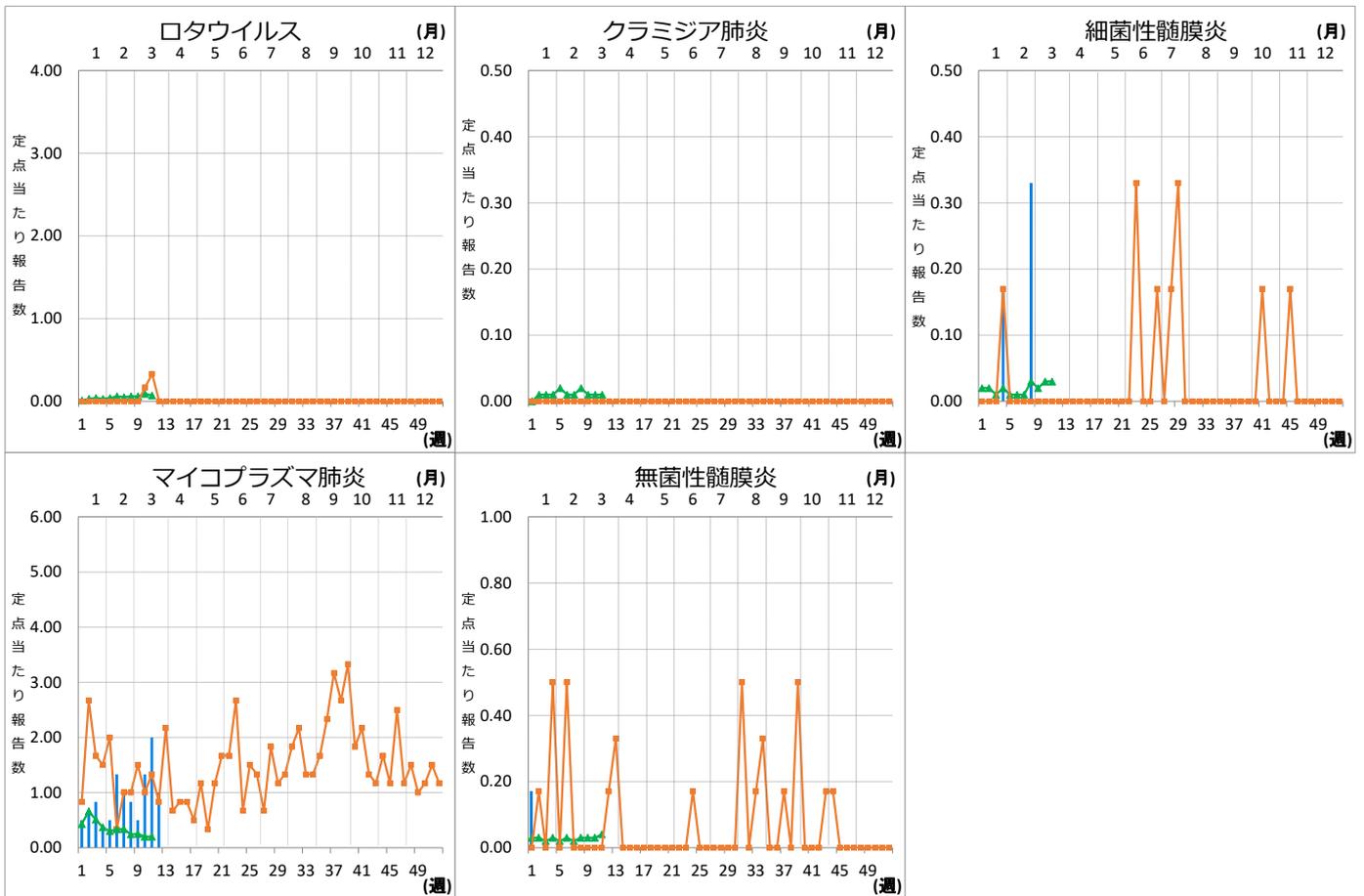
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第12週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第12週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第5週～12週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週
提出検体数	7	6	8	7	11	5	6	9
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	5	4	4	4	7	2	1	
SARS-CoV-2	1	0	0	0	1	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	1	2	0	2	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	1	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	1	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	1	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	1	0	2	1	0	2	3	
アデノウイルス	0	0	0	1	0	2	1	
不検出	0	2	2	1	2	1	1	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	9

※第7週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

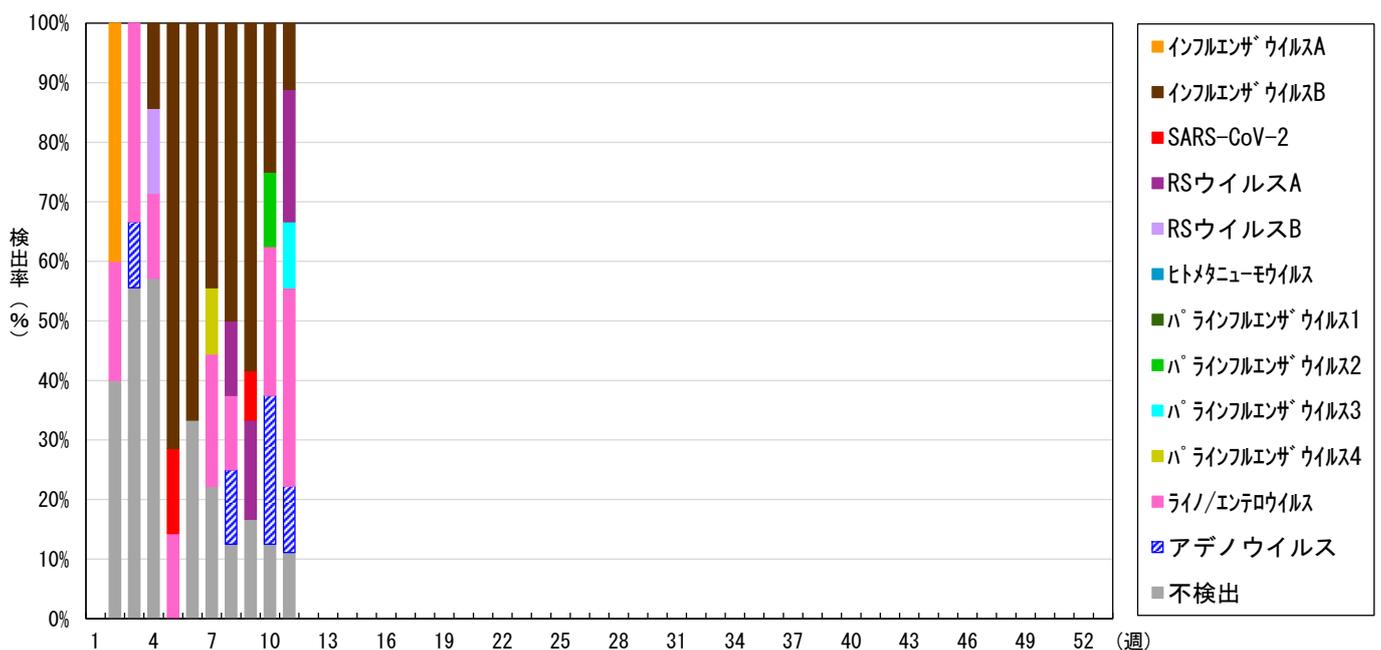
※第8週に提出された検体のうち、RSウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第9週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第10週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスB、ヒトパラインフルエンザウイルス2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第11週に提出された検体のうち、RSウイルスA、パラインフルエンザウイルス3、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～11週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第12週）

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(五類感染症)：青森市1人 (2026年計： 5人)
- ・ 水痘(入院例)(五類感染症)：西北1人 (2026年計： 6人)
- ・ 百日咳(五類感染症)：下北1人 (2026年計： 10人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第9週～2026年第12週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
9		劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	結核1人 百日咳1人	結核1人		
10	結核1人 A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人 百日咳1人	結核1人				
11	結核1人 A型肝炎1人 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人			梅毒1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
12	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人			水痘(入院例)1人		百日咳1人

第11週に青森市保健所管内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人の届出がありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第11週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	2756	15	309	6	4	137	31	1	24	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	6	31	22	5	6	375	2	93	41	197
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	6	98	3	31	343	180	6	110	13	694
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	144	2115	44	14	16	1940	1	139	5	

青森県（2026年第1週～第12週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒
累積報告数	16	4	3	1	5	1	2	5	6	2
分類	五類									
疾病名	百日咳									
累積報告数	10									

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅷ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第12週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第12週	介護・老人福祉関係施設	14	青森市保健所

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10週	11週	12週	13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	2	1	1										8
	発症者数	37	44	25	14	14										134
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	0	0	0										4
	発症者数	92	0	0	0	0										92
障がい関係施設	件数	1	0	0	1	0										2
	発症者数	20	0	0	18	0										38
その他施設	件数	0	0	0	0	0										0
	発症者数	0	0	0	0	0										0
計(月別)	件数	7	2	5												14
	発症者数	149	44	71												264

感染症の窓

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって引き起こされる感染症です。年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時にはより重症化しやすいといわれており、特に生後6か月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。2010年代には、年間12万人～18万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、3万人～5万人が入院を要したとされています。

RSウイルス感染症に特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスが付着した手指や物などを介した接触感染ですので、予防のためには、日常的に触れるおもちゃや手すりなどのこまめなアルコール消毒、流水・石けんでの手洗い、マスクの着用など、基本的な感染対策の徹底が大切です。

また、令和8年度から、妊娠28週～36週の妊婦の方が、RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンの定期接種の対象となります。このワクチンは、妊婦の方が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時からRSウイルスに対する予防効果を得ることができます。定期接種の詳細はお住まいの市町村にお問合せください。里帰り出産などで、お住まいの市町村以外での接種を希望される場合についても、お住まいの市町村にお問合せください。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞ [RSウイルスワクチン \(厚生労働省 HP\)](#)

令和8年度から、
妊娠28週～36週の妊婦の方を対象に

**RSウイルス
感染症**に対する
母子免疫ワクチンの
定期接種を実施します。

RSウイルス感染症は乳幼児が感染すると重症化することがあります

RSウイルスは小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、2歳までにほぼ全ての乳幼児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。
感染すると、発熱、鼻水、咳などの症状が出現し、初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、重症化することがあります。
2010年代には、年間12万人～18万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、3万人～5万人が入院を要したとされています。

定期接種の対象

接種時点で、**妊娠28週0日から36週6日**までの妊婦の方
過去の妊娠時にRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を
接種したことのある方も対象となります。

定期接種を受ける方法と費用

定期接種はお住まいの(住所のある)市町村で実施されます。
接種できる場所や費用について、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせ
ください。また、里帰り出産によりお住まいの市町村外での接種を希望する
場合についても、お住まいの市町村にお問い合わせください。

厚生労働省

出典：厚生労働省 HP

